

4

見えている危険、
見えていない危険を
予測しながら運転しましょう

★今日の集まり・早わかり★

目的

さまざまな交通場面にある危険を発見する練習を「危険予知トレーニング」といいます。この危険予知トレーニングはドライバーのためにつくられていますが、運転免許を持たない方でも、助手席に座っている立場、画面の中の自転車や歩行者の立場から、参加して考えることができます。ドライバーが歩行者や自転車の立場を思いやり、歩行者や自転車利用者が車の立場や考え方をすることは、交通安全に欠かせません。

この項は入門編として、「危険予知」とはどのようなトレーニングなのかを理解していただきます。

効果

- 運転力** 事故の原因についての知識と危険予測力が上がる。
- 気づき力** 自分の弱点に気づく（自己客観視）。
- コミュニケーション力** 仲間との交流でいきいきした気分になる。コミュニケーション力が上がる。
- 脳機能** 話し合いを通じて脳が活性化する。

時間割
の目安

▼ 約 2 時間（準備、あとかたづけを除く）

○準備	10分
①リーダーあいさつ	10分
②交通脳トレ	10分
③危険予知トレーニング	1時間 35分 (途中休憩あり)
④リーダーまとめ	10分
○あとかたづけ	10分



あらかじめ用意しておくこと

《リーダー・班長》

- ご自身でも事前に「ワークシート 危険予知1、2 問題」を解いて、内容を把握しておきましょう。
- 「今日、話し合うための台本」、「今日、覚えてほしいこと」をよく読んでおきましょう。

《教材など》

- リーダー・班長用：班長用に P38～51 をすべてコピー（班長の人数分）
レポート用紙など（まとめるために）
- 受講者用：「ワークシート」（P39～42）のカラーコピー（人数分）
「今日、覚えてほしいこと」（P43）のコピー（人数分）※白黒コピー可
別冊子「交通脳トレ3ヵ月」（2枚1組）のコピー（人数分）※コピー方法は問題集を参照
お茶（ペットボトル）（人数分）
赤と青のサインペン・筆記用具（持参していただくか人数分用意）

お名前



あなたは前方の国道に左折して合流するため、狭い一方通行の道を走っています



写真は、あなたが運転席から見ている場面です。

- ① 正面の国道にはタンクローリーが見えます。
- ② よく見ると、国道の手前の電柱そばに一時停止標識があり、「事故多し、止まれ」の立て看板も立っています。右側にはカーブミラーも見えます。
- ③ 国道の車線に沿って歩道があるようです。
- ④ 右側の駐車場には車が数台見えます。左側にも止まっている車があります。
- ⑤ 左側の塀ぎわに自転車が1台止まっています。

あなたなら、どんなことに注意してこの狭い道を進みますか？

-  「見えている危険」(動きに注意しなければいけないもの)に赤ペンで○をつけてください。
-  「見えていない危険」(潜んでいる危険)に赤ペンで△をつけてください。

 車を運転しない方 → 助手席に座っている立場からお答えください。

 自転車や原付を利用する方 → 自転車や原付で走っているつもりで、この問題を考えてください。

ワークシート 危険予知 1 解答

カラー
コピー

解答



交通場面にある危険を「見えている危険」（動きに注意しないといけないもの）と「見えていない危険」（潜んでいる危険）に分けて考えてみましょう。

●見えている危険

- ① 国道を走る車……合流する国道を走っている車は「見えている危険」です。交通量の多い、広い道への左折合流は、手前でいったん止まり、車の流れが切れるのを待っています。いきなり合流するのはもちろん、徐行して合流するのも危険です。
- ②と③ 駐車場の車…駐車場に止まっている車が出てくるかもしれません。運転席に人がいないか確かめ、いれば車の動きに注意します。

●見えていない危険

- ① 歩道の歩行者、自転車…一時停止標識だけでなく、「事故多し、止まれ」の立て看板も立っています。反対側にはカーブミラーもあります。この3つから、歩道を通る歩行者や自転車との「であがしら出会い頭事故」の危険が予測できます。写真では歩行者や自転車は見えませんが、歩道の手前で必ず止まって安全確認しましょう。
- ② …右の駐車場や左の家のカゲから人が出てくるかもしれません。
- ③ …自転車の持ち主が戻ってくるかもしれません。

●予測しないで行動すると

写真2は、上の問題写真の直後に撮ったものです。歩道に女性がいます。さらにその後には、自転車が歩道の右から1台、建物のカゲから1台出てきました（写真3）。

起こりそうな危険を予測せず、歩道の手前で一時停止せずにいきなり歩道を横切ると、自転車や歩行者と出会い頭事故を起こす可能性が高いことを示しています。

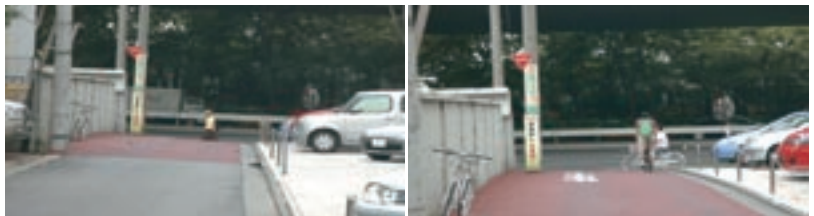


写真2 歩行者が通過

写真3 自転車が通過

目的外の複製を禁ず

お名前

あなたの車は住宅団地の道を走っています



© (株) JAF MATE 社

写真は、あなたが運転席から見ている場面です。

あなたの車は、画面左の駐車車両をよけて、道路の右側に出ています。

あなたはこちらに向かって左折してくる対向車（画面右奥）と、歩道に立って道路の向こうを見ている女の子、左折する車を見ている母親らしい女性に気づいています。

どんな危険が
ありますか？



見えている危険に赤ペンで○をつけてください、
見えていない危険に赤ペンで△をつけてください。

気がつかなかった
危険は？



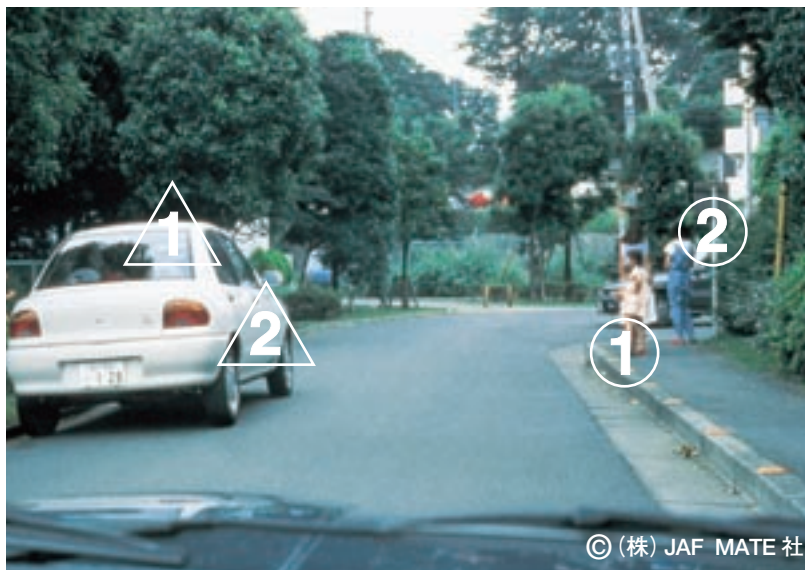
他の人の意見でわかった、自分では気づかなかった危険は青ペン
で○をつけてください。



車を運転しない方 → 助手席に座っている立場からお答えください。



自転車や原付を利用する方 → 自転車や原付で走っているつもりで、この問題を考えてください。



●見えている危険（動きに注意しなければいけないもの）

- ① 立っている女の子…小さな子どもはいつも要注意です。この場面では女の子のそばに大人の女性がありますが、子どもに注意している様子はありません。子どもは何かに興味を持つと、左右の安全を確かめずに車道に出てくることがあります。
- ② 前方面面から、左折して進んでくる対向車…互いに、またはどちらかが速度を落とさなければ衝突する恐れがあります。

●見えていない危険（潜んでいる危険）

- ① 駐車車両のカゲからの飛び出し…この問題でとくに大事なポイントです。運転者には見えないところ（死角といいます）から、人や自転車が出てくる危険を考えます。対向車がくる前に通り抜けようと速度を上げると、歩道にいる子どもの動きや、死角になっている駐車車両のカゲへの注意がおろそかになり、飛び出しがあった場合に避けきれないことがあります。もう1つの注意点は、あなたには見えない駐車車両のカゲが、対向車の運転者からは見えるということです。そこに横断しようとしている人や自転車を見つけたら、対向車のドライバーは停止するでしょう。止まってくれた車を見て、あなたには見えない車のカゲにいる人や自転車は横断を始めるかもしれません。



- ② 駐車車両のドア開き…駐車車両に乗っている人が、後方の安全を確認しないで、車から降りようとドアを開けるのはときどきあることです。不意のドア開きにも注意しましょう。

高齢ドライバーはどんな違反をして、事故を起こしたか？

図1、2は交通事故（死傷事故）を起こした高齢者が、そのときどんな法令違反をしていたかを見たものです。

高齢ドライバーは若者や壮年と比べたとき、安全不確認の違反と一時停止標識や信号無視の違反が多くなっています。

危険予知1の問題で一番大事なのは、一時停止の標識でした。一時停止標識は信号機の赤点滅と同じで、この標識のある交差点では、とくに指定がない限り、四輪車、二輪車、自転車などの車両は必ず手前でいったん止まり、左右の安全を確かめてから、交差点に入らなければなりません。

自転車（図2）でも、止まるべきところで止まらずに（一時不停止、信号無視）、起こす事故が多くあります。

四輪車も二輪車、自転車も、しっかり止まって安全確認

危険予知2の問題では、駐車している車のカゲの危険が強調されました。見通しの悪い交差点も同じで、いろいろな危険が隠れています。

安全が確かめにくい所では、いったん止まるか徐行して、車や塀のカゲから人が出てこないか必ず安全確認しましょう。

一時停止をする、赤信号を見落とさない、安全確認を必ずすることで、高齢者の事故は四輪車、二輪車、自転車ともに減らすことができます。

なお、自転車ではハンドルやブレーキ操作がうまくできず、事故になるケースが多くなっています（図2）。

早め早めに危険を予測しておけば、危険を避けるための急な操作をしなくて済みます。

図1 高齢ドライバーの事故時の違反の特徴

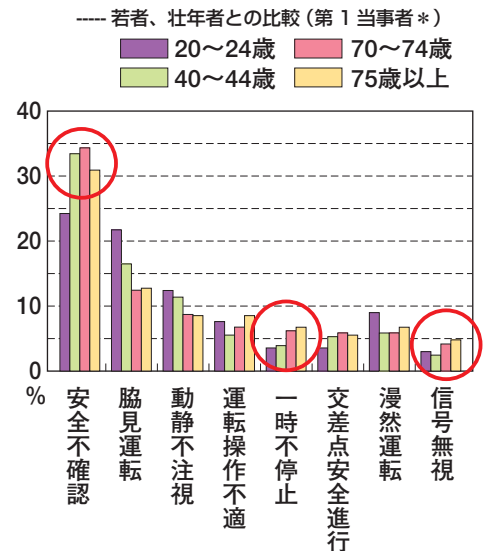
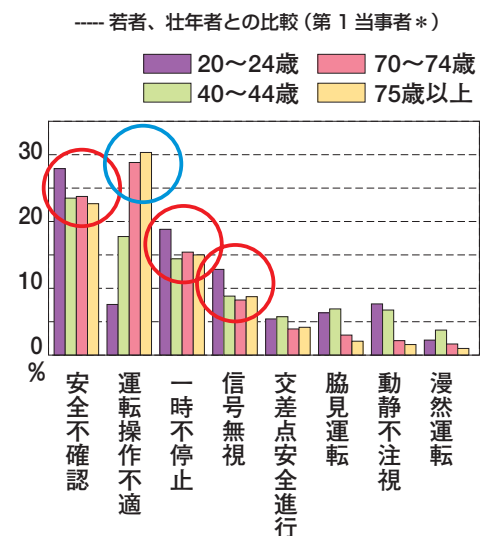


図2 高齢者の自転車事故時の違反の特徴



（財）交通事故総合分析センター 2006年

*第1当事者：事故を起こしたとき、主な原因をつくった側の人をいいます。双方の違反が同程度のときは、被害が少なかったほうが第1当事者になります。

話し方の例

このまま読みあげるだけで講座を進めることができます



リーダー

●お忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。「危険予知」といっても初めての方が多くと思いますので、今日は、危険予知とはどういうトレーニングなのかを理解していただくことを主な目的とします。

●車を運転しているときや、街を歩いているとき、自転車で走っているとき、事故になりそうな危ない場面に出会うことがあります。事故になりそうな危険には「見えている危険」と、「見えていない（潜んでいる）危険」があります。眼の前に見えている1番や2番、3番目の危険には気がつくのですが、4番、5番目の危険となると見落としがちです。

●交通場面の写真などを見ながら、そこにある「見えている危険」、「見えていない危険」を探すことを「危険予知」といい、その訓練を「危険予知トレーニング」といいます。危険予知の問題は通常、実際に多い交通事故のケースを参考に危険の多い場面を選び、問題をつくります。

●運転経験の長いみなさんには要領さえ飲み込めば簡単と思いますが、その場面から読み取れるいろいろな危険を話し合うことは、実際の交通場面でも必ず役に立つと思います。

では班ごとに、班長さんや私が進行役になって始めます。

運転免許を持たない方も参加している場合の追加説明の例

●四輪車を運転されない方は、助手席に座っているつもりで、あるいは原付や自転車で同じ場面を走っているつもりで、答えを探してください。助手席からの適切なアドバイスは、高齢者にとっては助けになります。

●年を取ると、どうしても注意力が散漫になったり、安全確認を忘れがちになる方もいらっしゃいます。運転席のご主人と助手席の奥様が（その逆でも同じですが）、危険予知のトレーニングで危険予測力を上げ、適切に助け合うのは、事故を防ぐ上で効果があります。

●自転車や歩行者の立場からの危険予測も、とても大切です。車のドライバーは、自転車や歩行者のことをよく知りません。自転車や歩行者も、車を運転する人について知らないことが多いのです。たとえば、自転車や歩行者は車のドライバーが自分を見ていると思って安心していても、ドライバーからはその自転車や歩行者が見えていないことがあります。

●いろいろな立場から意見をいいあい、理解しあうのは、とても大切なことです。

ポイント

★準備の必要上、初めて実施するときは事前に班長を決めておきますが、次回からは自薦、他薦で班長を決めるのもよいでしょう。

★参加者のみなさんに、トレーニングの目的、内容を理解してもらうことが大切です。

★お互いのことを知ると話がスムーズに進みます。

進める順序

②交通脳トレ

10分

■「交通脳トレ」問題
2枚配布



リーダーと班長にやっていただくこと

♠ 班長

- ① 「交通脳トレ」問題 2枚を配る。
- ② 2人1組になり、問題終了までの時間を腕時計（秒針付き）で計って用紙に記入してもらう。

▼1枚目 「文字ひろい」または「まちがい探し」 ▼2枚目 「計算と音読」



③危険予知
トレーニング

1時間 35分

○危険予知 1 を行う
(合計 45分)

■「ワークシート
危険予知 1 問題」
1枚配布 (5分)

♠ 班長

- 「ワークシート 危険予知 1 問題」1枚と、赤と青のペンを配り、やり方を説明する。

問題



■ 問題の読みあげ
と答えの記入 (5分)

♠ 班長

- ① 「ワークシート 危険予知 1 問題」を読みあげる（参加意識を高めるために、参加者に読んでもらってもよい）。
- ② 危険個所に印をつけてもらう。
 - ・ 「見えている危険」(動きに注意しなければいけないもの)には赤ペンで○をつけます。
 - ・ 「見えていない危険」(潜んでいる危険)には赤ペンで△をつけます。





●最初のトレーニングは「交通脳トレ」です。この問題は全部で3ヵ月分あるのですが、今日はそのうちの1日分（2枚）をやっていただきます。

●1枚目の問題では、安全運転に大切な、運転中にとっさに危険を察知する能力を支える、脳のトレーニングを行います。2枚目の問題では、簡単な計算問題（※）と小説などの一部を音読していただき、脳を活性化します。2枚1組の問題を少なくとも3ヵ月間続けて行くと、効果が出てきます。

●2人1組になり、問題にかかった時間を腕時計（秒針付き）で計ります。1枚目の問題から始めます。「スタート」の合図をしたら、時間を計ってください。では、スタートします。（2枚目の問題も同様に行う）



●「危険予知1 問題」は、車を運転しているときの危険を見つけるもので、一方通行の狭い道を、左折して国道に入るため、国道に向かって直進している状況（写真）を設定しています。

●みなさんは自分が運転しているつもりで、この場面のどこにどんな危険が見えるか、また隠れていそうかを考え、答えを出しましょう。

運転免許を持たない方も参加している場合の追加説明の例

●リーダーの先ほどの話にもありましたが、今日は車を運転しない方もいらっしゃいます。車を運転されない方は、助手席に座っているつもりで、あるいは原付や自転車で同じ場面を走っているつもりで、答えを見つけてください。



●では、写真の画面がドライバー（ここでは問題を解く人たち）にとってどういう状況かの説明から入ります。では、問題を読みます（あるいは「○○さん、問題を読んでいただけますか？」）。

●普通はこのような詳しい状況説明はありません。一時停止標識や、「事故多し、止まれ」の立て看板などヒントになるものは、自分で発見してもらいます。

●写真では一方通行の道の先が下がっているので見えませんが、国道の手前に、国道に沿って歩道があるのは、左の電柱と重なって一時停止標識があり、「事故多し、止まれ」の立て看板が立っていること、カーブミラーがあることなどで想像できます。それでは問題の写真をよく見ながら、危険と思うところに印をつけてください。

★まず、「交通脳トレ」から始め、脳の働きを高めます。

★開発者は、脳のトレーニングで知られる東北大学の川島隆太教授です。

※やさしい問題をすばやく正確に計算することが、脳を活性化させます。

★時間の計り方を練習してから始めましょう。

*「交通脳トレ」の詳しい情報は、別冊子「交通脳トレ3ヵ月」をご覧ください。

★「ワークシート」の問題に答えながら、自分の運転を振り返り、危険予知への関心を高めます。

★参加者1人ずつに意見をってもらうことで、お互いの考え方を知り、コミュニケーションが深まります。



進める順序	リーダーと班長にやっていただくこと
	
<p>■ 班ごとの話し合い (20分)</p>	<p>♠ 班長</p> <p>① 1人ずつに○と△をつけた個所と理由を発表してもらう。普段の運転経験をもとに自由に話してもらうとよい。</p> <p>② ○、△のついた個所と、そこにつけた人数をメモしておく。たとえば左の駐車車両は○人というように。</p> <p>③ 全員の話が終わったら、メモをもとにまとめる。</p>
<p>■ 班の代表の発表 (10分)</p>	<p>♠ 班長</p> <p>○班ごとに代表が出て答えと理由を参加者全員に発表する。</p>
<p>■ 「ワークシート 危険予知1 解答」 1枚配布 (5分)</p> 	<p>♠ 班長</p> <p>① 「解答」を1枚ずつ配る。</p> <p>② 解説文を読みあげる（参加意識を高めるために、参加者に読んでもらってもよい）。</p> <div data-bbox="1161 936 1442 1361" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>解答</p>  </div>
<p>☕ 休憩 (10分)</p>	
<p>○ 危険予知2を行う (合計40分)</p> <p>■ 「ワークシート 危険予知2 問題」 問題1枚配布 (5分)</p>	<p>♠ 班長</p> <p>「危険予知2」を、「危険予知1」と同じ要領で行う。</p> <p>① 「ワークシート 危険予知2 問題」を読みあげる。</p> <p>② 危険個所に○か△をつけてもらう。</p> <div data-bbox="1161 1473 1442 1899" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>問題</p>  </div>
<p>■ 班ごとの話し合い (20分)</p>	<p>♠ 班長</p> <p>○以下、「危険予知1」のときと同じように話し合いを進める。</p>
<p>■ 班の代表の発表(10分)</p>	<p>♠ 班長 班ごとに代表が出て、答えと理由を参加者全員に発表する。</p>

話し方の例

運転免許を持たない方も参加している場合の追加説明の例

- 車を運転したことがない人には難しいかもしれませんが、わかる範囲で○や△をつけてください。一時停止標識は、四輪車、二輪車も自転車もいったん停止しなければなりません。こういう標識のある所は、事故が起きやすい所だということは知っておいてください。



- 書き終わりましたか。それでは○○さんから順に右回りで答えをいってください。なぜそう思うかも、できれば話してください。

[全員が話し終えたら]

- 見えている危険で○が多かったのは、×で×人……、見えていない危険で△がついたのは□で□人……でした。
- 同じテーマで話し合うことは、危険個所の知識を広げたり、深めるのにとっても役に立ちます。



- 班ごとのまとめが終わりました。では「解答」をお配りします。解答には、こういう場面で起きやすい事例が書いてあります。○○さん、読んでいただけますか？

[解答の読みあげが終えたら]

- 解答の写真2と写真3からもわかるように、交通の状況は時々刻々変化します。今いなかったのに数秒後には歩行者や自転車が現れます。あらかじめ予想しておけば、あわてずに済みます。



- 「危険予知2 問題」は、住宅団地の中の道路です。問題を読みます（あるいは参加者に読んでもらう）。
- 「危険予知1」と同じように、「見える危険」には○、「見えていない危険」があると思えたら△をつけてください。

運転免許を持たない方も参加している場合の追加説明の例

- 「危険予知1」と同様に、助手席に座っているつもりで、あるいは、原付や自転車に乗っているつもりでお答えください。

- 書き終わりましたか？ それでは○○さんから順に、○と△をつけた個所と理由をお願いします。

ポイント

★話し合いでは、班ごとにリーダーや班長が進行役になって、参加者の意見を引き出すことが大切です。突飛に思われる意見もすべて尊重しましょう。

★他の人の話について感想を話すことで、さらに話題が深まったり、共感したりすることができます。

★挙手で発表する人を決めるときは同じ人に集中しないように気を配りましょう。

★リーダーと班長は、ただ聞くだけでなく、話の内容をメモし、全員の発言が終わったら、どんな意見が多かったか、進行役として興味深い意見は何だったか、まとめることもポイントです。

★普段の運転経験や助手席での経験をもとに、自由に話してもらおうとよいでしょう。

話し方の例

- 子どもと駐車車両のカゲが危険というのは、車を運転したことのない方でも、わかりだと思います。
車が進んでいく方向に子どもを見つけたら、子どもの動きに注意を払う必要があります。駐車車両のカゲに何が隠れているかは、あなたからは見えません。見えないときは、いつでも止まれるように車の速度を落とすか、いったん止まって、左右の安全を確認する必要があります。
- 対向車の運転者の動きを予想するのは、運転した経験のない方にはわかりにくいかもしれません。「安全に運転するとは、なるほどこういうことにも気を配ることなのか」とご理解ください。



- お疲れ様でした。今日は2つの問題で、危険予知トレーニングに挑戦していただきました。危険を予知するとはどういうことか、わかりいただけたと思います。

- 今、お配りした資料「今日、覚えてほしいこと」には

- ・「高齢ドライバーは、どんな違反をして事故を起こしたか？」
- ・「四輪車も二輪車、自転車も、しっかり止まって安全確認」

について書いてあります。指名させていただきますので、順番に読んでいただけますか。

- 「危険予知1」の問題でやりましたように、一番大事なのは、一時停止の標識があつたら必ず止まることです。一時停止標識を見落とししたり、赤信号に気づかないで事故を起こす高齢者は少なくありません。一時停止標識のある交差点では、四輪車、二輪車、自転車は必ず手前でいったん止まり、その後、左右の安全を確かめてから、交差点に入りましょう。

- 「危険予知2」では、駐車している車のカゲに隠れている危険が強調されました。

止まるべきところで止まらず、安全確認すべきところで確認を忘れたことで起こす事故は、四輪車だけでなく、原付でも自転車でも大変多いのです。

- 交通事故は、主に四輪車と四輪車、四輪車と自転車、四輪車と二輪車の中で起きます。

ドライバーは当然ですが、自転車に乗る人も歩く人も、街にはいろいろな危険が隠れているのだと知って行動すれば、ずいぶん事故は減ると思います。

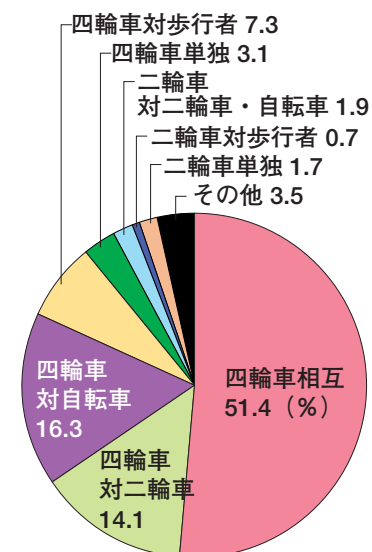
ポイント



- ★参加者はトレーニングの後、今日のまとめを期待しています。リーダーの方は「今日、覚えてほしいこと」を配り、今日のポイントをまとめて伝えましょう。



交通事故パターン別発生件数
(88万6,864件)



(財)交通事故総合分析センター 2006年